

田川高校のホームページをご覧くださいありがとうございます。また、日頃より本校の教育活動にあたたかいご理解とご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

令和7年4月より学校長を務めます青木裕士です。

北アルプスを仰ぎつつ塩尻市の北端、松本市との境界に位置する田川高校は昭和57年(1982年)に設置されました。以来、令和4年11月に行われた創立40周年式典を経て、12,000名の卒業生を輩出してきました。

創部3年目でのサッカー部をはじめ、バスケットボール部、ソフトテニス部など数多くのクラブが全国インターハイに出場するなどクラブ活動や生徒会活動と生徒の自主的な活動が活発な学校です。

本校の建学の精神である「質実剛健、尚学共助の校風と知徳体の調和のとれた学びの場を目指す」では、外見ではなく人としての中身を充実させ、たくましく健康であること。また、学ぶ姿勢、学ぶ心を尚び(とおとび)、お互いを大切にして教え励まし合うことを目指すよう、うたわれています。

私がつりわけこの「尚学共助」という言葉に今の時代だからこそ共感するのは、教育とは単に知識や技能を習得する営みではなく、「他者と共に生きる力」を育てるものであると考えるからです。私たちが生きるこの社会は、様々な個性や価値観と文化が複雑に絡み合い、常に変化し続けています。その中で自分と社会の幸福を実現するためには、人と対話し、異質なものを受け入れ、協働して新たな解を見出す「変化に対応し、主体的に学び続ける力」です。

本校では次の3つの指針に基づいて生徒の可能性を最大限伸ばしたいと考えています。

まず第一に、「共助と思いやりの心の育成」です。これは本校の教育活動の根幹をなすものです。日々の学校生活の中では、生徒同士が助け合い、互いを尊重する姿勢が育まれています。学校行事や部活動では協調性やリーダーシップを自然と学ぶことができ、生徒同士の絆が強まると同時に、社会に出てから必要とされる人間力の礎が築かれます。

次に、「基礎学力の充実とコミュニケーション能力の育成」にも力を入れています。学習面では、基礎を大切にしながら応用力を身につけられるよう、丁寧な授業と協働的な学習を実施。ICTの活用や探究的な学びを通じて、自ら考え、他者と対話しながら学びを深める力を養っています。

さらに、「地域と連携し、市域貢献する人材の育成」にも積極的に取り組んでいます。地元企業や自治体との連携によるキャリア教育、地域の課題をテーマにした探究活動、ボランティア活動など、地域に根ざした教育を展開していきます。これにより、生徒たちは自らの学びが社会とつながっていることを実感し、地元に対する理解と愛着を深めています。

このように、田川高校は、生徒一人ひとりが心豊かに、そして粘り強く成長できるような教育環境を整えています。共に学び、共に支え合いながら未来へと歩む田川高校での三年間は、きっとかけがえのないものとなることでしょう。

長野県田川高等学校
第17代校長 青木 裕士

